

物質名		保存方法	形状	比重	沸点	融点	水溶性	単独爆発	消火	加熱	反応	分解	溶ける	溶けない	安定剤	NG
過塩素酸 (発煙性)	強酸 (塩酸より強)	密栓(ガラス製) ×鋼製は不可	無・液体	1.77	203°C	-112°C	○	○	水、砂	塩化水素 (分解)ヒューム⇒爆発	金属⇒水素 無水物+亜鉛・銀・銅(イオン化小)⇒酸化物 脱臭剤⇒無水過塩素酸(密栓しても爆発性あり) <b>水と反応⇒発熱</b> (発火はせず溶ける) 水と反応⇒安定的化合物	×加水分解しない	水		消石灰、チオ硫酸Naで 中和⇒水で流す (アルカリ性)	可燃物、アルコール 酢酸などの有機物(炭素含) 爆発性あり
過酸化水素 (純粋⇒粘性) (高濃度⇒油状)	弱酸	密栓しない	無・液体	1.5	150.2°C	-0.43°C	○	○	水、砂	<b>酸素発生</b>	過マンガン酸カリウム ニクロム酸カリウム に対して還元剤となる  酸化すると水を発生⇒酸素を発生 アルカリ⇒酸素⇒水 熱、日光(分解)⇒酸素+水	・日光 ・有機物 ・金属粉 ・過酸化マグネシウム ・二酸化マンガン粉末 ⇒酸素+発熱 分解するため安定剤付与	水 アルコール	石油 ベンジン	尿酸 リン酸 アセトアニリド	アンモニア⇒爆発 爆発性あり
硝酸	強酸	密栓 ステンレス (鉄、ニッケル、アルミニウムは希硝酸と反応するので使えない)	無・液体 (黄褐色)  発煙硫酸 (赤色、赤褐色)	1.5	83°C	-42°C	○	×	水、砂	(加熱、日光、金属粉) 二酸化窒素+ <b>酸素</b> (黄褐色)  発煙硫酸⇒ <b>酸素発生</b> (濃硫酸に二酸化窒素を 加圧飽和させたもの)	銀・銅を腐食、金・白金は腐食しない (濃硝酸+濃塩酸は金・白金を腐食) アセトン・酢酸⇒発火 有機物(紙・木材)⇒発火、爆発 ×硫酸・塩酸・CO2 発煙硫酸は酸化剤、ニトロ化剤として用途 (濃硝酸に二酸化窒素を加圧飽和されたもので、純硝酸を86%以上含んだもの) 発煙硫酸は赤褐色の液体で常温で空気に触れると二酸化窒素を発生する。 熱濃硝酸はリンを酸化してリン酸を生じる 硫化水素、アニリン⇒発火 二硫化炭素、アミン類、ヒドラジン、アルコール、濃アンモニア水⇒発火、爆発 希硝酸+銅⇒一酸化窒素 濃硝酸+銅⇒二酸化窒素 湿った空気中で発煙 強酸(塩酸、硫酸)CO2とは反応しない <b>水と反応⇒発熱(高濃度の場合)</b>	鉄・アルミニウム ⇒希硝酸に溶ける ⇒濃硝酸には不動態被膜を形成して溶けない  水溶液は極めて酸性強い一塩基酸で水酸化物に作用して硝酸塩を生じる	水		炭酸Na(ソーダ灰)水 酸化Ca(消石灰)にて 中和	不安定だが爆発性はない
フッ化塩素 三フッ化臭素 五フッ化臭素 五フッ化ヨウ素		密栓(ガラス製は不可)	無・液体 無・液体 無・液体	2.84 2.46 2.30	125°C 41°C 98°C	8.77°C -60°C 9.47°C		×	粉、砂	酸素は含まない 水⇒フッ化水素(分解) ハロゲン化合物⇒多くの金属や非金属を酸化してフッ化物をつくる(酸性性がある⇒還元されやすい) <b>水と反応⇒発熱(三フッ化臭素、五フッ化臭素)</b> 空気中で発煙(三フッ化臭素) フッ素を多く含むものは無色	水と接触⇒分解		水		水 可燃物 ヘキサ ン 爆発性はない	

不燃性で水に溶けやすい  
還元剤と反応(強酸化剤)  
無機化合物(炭素は含まない)  
多くは分解によって酸素を発生する  
刺激臭  
容器は耐酸性  
分解を促進する物品とは接触させない

・無機物(炭素と表示があるが無機物のもの)  
一酸化炭素  
二酸化炭素  
炭酸カルシウム

消火剤  
適応  
・水系(水、強化液)  
・粉末(リン酸塩)  
・乾燥砂

適応しない  
・二酸化炭素  
・ハロゲン  
・粉末(炭酸水素塩)